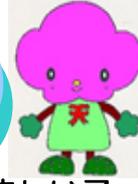




# スマイル天神 No.26



令和4年10月11日  
天神小学校  
校長 木下 和弥

思いやりのある子・進んで学ぶ子・明るくたくましい子

## 10月7日(金)全校朝会で…

先週の10月7日(金)の朝、全校朝会を行いました。生活指導主任から話をしました。人に対して「死ね」とか「消えろ」という言葉の暴力をやめましょうということです。

私が子どもの頃…といっても40年以上前のことですが、その頃、友達とけんかをして、相手に文句を言う言葉としては「ばか」とか「あほ」とかいう言葉だったと思います。「死ね」は少なくとも私の周りにはなかったように思います。相手をおとしめて、相手に嫌な気持ちをさせる究極の言葉が「死ね」かもしれません。「消えろ」も「死んでなくなれ」という意味を含んでいるとすれば、同じくらい相手を傷つける言葉になります。「死ね」と相手に言って相手が精神的に非常に苦痛を感じたり、恐怖を感じたりすると、「脅迫罪」という罪に問われる可能性もあります。それくらい言ってはいけない言葉です。

私が直接子どもたちに指導をする機会は、めったにありませんが、子どもたちに話をするときには、同じような話をします。

一つは、「世の中でやってはいけないことは、学校でもやってはいけない。子どもだから許される、何を言っても何をやってもいいということではない。」ということです。もう一つは、「悪いことをしたら、正直に言って、親や先生から怒られていい。それでつり合いが取れる。もし悪いことをして怒られなかったら、つり合いが取れず、それが積み重なると、悪いことをしてもいいという間違ったことが身につくかもしれない。」ということです。

テレビなどメディアの影響、現代の環境の影響もあるのですが、「言葉に対する責任」をもっと意識しなければならないと思います。言葉は一度出てしまったら、元に戻すこと、なかったことにすることはできません。言葉によって、人を傷つけることもあるし、人を嬉しい気持ちにすることもできるのです。

ネットの世界は匿名性が強く、無責任な発言を簡単にすることができるようですが、警察が調べて、個人が特定され、罪に問われる事件がこれまで数多くおこっており、決して他人ごとではありません。

もし、このような相手を傷つける言葉を相手のノートや物、公園や人の家などに落書きをしたら、「器物破損」という罪に問われます。ちょっとしたいたずらのつもりが、罪に問われる可能性もあるのです。たとえ子どもであったとしても、それくらい人としてやってはいけないのです。

なぜ、そのような人をおとしめるような、人を不幸にするような言葉を相手に投げかけるのか。それは、相手をおとしめることで、自分が優位に立ちたいから。自分の心が満たされていないから。認められていないから。不安だから…などでしょうか。

大切なのは、子どもの安心感です。安心感は、家族から話をたくさん聞いてもらえることから生まれると思います。学校で、校長の私にも、子どもがいろいろと話してくれますが、決してさげすまない、決して否定しないように話を聞くようにしています。仕事が忙しく、家庭でも忙しく、なかなかゆっくりと話を聞いてあげることができない場面も多いと思います。実践されている方も多いと思いますが、子どもの心の安心という大切な力を育てるために、一日に10分だけでも、ぜひ子どもたちの話に耳を傾けてください。



天神小一徳運動 「気持ちのいいあいさつ」 ~あじさいあいさつを~

~**あ**いての目を見て **い**ぶんから **さ**わやかな声で **い**つでも・どこでも・誰にでも